

在宅で 生きる

vol.26

12月号

2016.12.1.

練馬区 地域医療担当部
地域医療課
医療連携担当係
TEL:03-5984-4673

特集 — “在宅療養講演会” 開催報告 —

◆ 「家で看取る」ということを考える

平成28年10月2日(日)に、練馬区立区民・産業プラザ3階(ココネリホール)にて、在宅療養講演会『今、みんなで知っておく自宅での療養生活』を開催しました。

現在、高齢者の多様なライフスタイルの広がりと共に、人生の最期における「自分らしい生き方」について、様々な考えやニーズが生まれています。練馬区では、区民の皆さんと自分の“最期”や“自分らしい生き方”について、一緒に考えていくことを目的に、大規模な在宅療養講演会を年1回開催しています。



今回は、フリーアナウンサーであり、映画監督でもある長谷川ひろ子氏をお招きし、『看取り』をテーマにした映画を上映した後、監督から死生観などに関するご講演をいただきました。

前年を上回る152名もの区民の皆さまにご参加頂き、今回の講演会も大変盛況となりました。

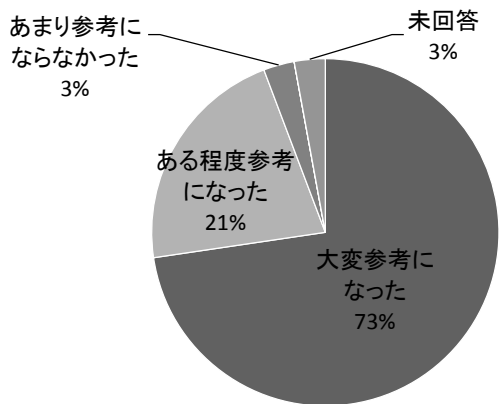
第1部の映画では、実際に自宅で家族を看取った方の“生の声”が上映され、つづく第2部の講演会の後には、監督と映画にも出演されている在宅医とのトークセッションが行われ、在宅療養の心構えや、提供可能なサービスなどについて教えていただきました。

◆ 79%の参加者が「自宅で過ごしたい」と回答

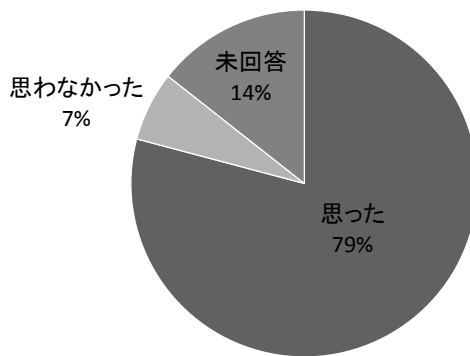
映画の中では、自宅でご家族を看取った方のコメント、『看取り士』の方の思い、そして監督自身がご家族を看取るまでの映像などが紹介され、在宅で療養するという事、そして看取るということについて、臨場感をもって体験談をご紹介いただきました。

その結果、講演会終了後のアンケートでは、94%の方に講演会について「大変参考になった」「参考になった」と肯定的なご回答をいただきました。また、79%の方に「医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたい」とご回答いただきました。

Q:本講演会は参考になりましたか？



Q:医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思いませんか？



◆ 参加者の声：「今、そしてこれからを大切にしたい」

本講演会に参加頂いた区民の方から寄せられたご感想をいくつかご紹介します。

- 映画も監督の話もとても感動的で、他の人にも紹介したいと思った。また、「在宅療養」を行うための、より現実的、実用的な事を求めて来たので、2部のトークセッションと在宅療養ガイドブック「わが家で生きる」がとても参考になった。
- 自分や家族の死と向き合うことができた。
- 在宅療養は本人・家族にとっても最後の過ごし方であり、理想と希望。実現のむずかしさはあると思うが、区役所の支援体制を知って少し安心した。
- 看取るということの大切さがわかった。
- 親を大切にしたいと思った。今、そしてこれからを大切にしたいと思った。
- 監督の「どう生き抜くか」という言葉が心に響いた。腕の中での看取り、こんなに温かい看取りがあることを初めて知った。

住み慣れた家で最期まで暮らすための「在宅療養」が皆様の選択肢の一つとなるように、区はこれからも、講演会の開催やガイドブックの周知を通じ、在宅療養に関する情報発信を行っていきます。